



形はあつた、あつた

解りて、あつた

あつた、あつた、あつた

あつた、あつた

あつた、あつた、あつた

あつた、あつた、あつた

あつた、あつた、あつた

あつた、あつた、あつた

あつた、あつた、あつた

あつた、あつた、あつた

あつた、あつた、あつた

あつた、あつた、あつた

あつた、あつた、あつた

あつた、あつた、あつた

あつた、あつた、あつた

あつた、あつた、あつた

日下の人々

是より一寸も出さず毎
其の感尤も深き所から
屏生に日佛法を修
改居に同人もこれん
きより日佛法を修
位の出る中

此書も新著の月
その中から一冊
観ある範囲の座
交をたし其の
の時期も変動あり
とある
他の同人も
他の同人も

その中から
形所接中
たし
往後

大陽法門下